

祝開館30周年

開館30周年を迎え、特別展「緑いきいき！ 岐阜の森」では記念植樹を行った(4月)。関連イベント「ギフチョウを観察しよう」では、ギフチョウの飛来地であった百年公園で、今ではなかなか見かけることが困難なギフチョウを探ることができた！



愛・地球博からモリゾーとキッコロも遊びに来てくれたよ

平成18年
(2006)



植樹の様子(↑)とカンアオイの葉に卵を探す職員(→)



文化財保護センター特別展「縄文人ってなかなかすごい!!」を開催(7/15～9/3)。火おこし体験や勾玉づくりの催しも好評だった。



勾玉づくり(左)と火おこし体験(右)



飛騨美濃合併130年記念事業に合わせて無料開放日を行った(8/20)。展示室観覧の他、化石レプリカづくりや講演会などの催し物に参加する多くの人で賑わった。



ナゾの旅人 ポー(鳩)が棲みつくように。園児にも大人気

平成19年
(2007)

わくわく体験スタート

郷土学習室(現在の「みんなの部屋」)でわくわく体験が始まった(5月)。開始当初から「化石取り出し体験」は人気のメニューだった！



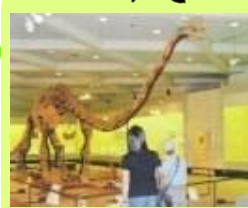
平成20年
(2008)



標本制作の様子

特別展「骨のあるやつ」開催(9/19～11/16)。展示に使用するダチョウの全身骨格標本をサポーターグループが初作製。それがグループ名「ダチョウ組」の由来となった！

巡回展で来場者2万8千人突破！



ユアンモサウルスの全身骨格

巡回展「恐竜と生命の大進化ー中国雲南5億年の旅ー」(7/6～9/2)では来場者2万8千人を突破。雲南省で発見された、全長17mのユアンモサウルスをはじめとするジュラ紀の恐竜計4体の全身骨格標本を展示。



平成21年
(2009)



文部科学省の公募に採択された！

特別展「川ーカワーイイね！～流れが作り出す自然～」開催(7/2～8/31)。第30回「全国豊かな海づくり大会」において文部科学省の公募事業「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」に当館の自河自賛プロジェクトの実績が採択された。

自河自賛プロジェクト始動

自然豊かな郷土の素晴らしい実感をできる県民参加型の調査研究事業をスタートした(6月)。



石の観察とカワゲラウオッチング活動の様子

平成22年
(2010)

特別展3本開催

ぎふ清流国体開催に伴い特別展を3回開催！「ジオパディア～岐阜の大地から地球史を探る～」(7/6～9/2)。「飛騨・美濃の信仰と造形ー古代・中世の遺産」。「岐阜、染と織の匠たち 人間国宝三人展」(9/21～同時開催)。



巨大二枚貝シカマイアの復元模型



人間国宝三人展の様子

濃尾震災120年



濃尾地震120年目にあたり特別展「濃尾震災120年」を開催(9/13～11/13)。

東日本大震災で被災した陸前高田市の文化財レスキュー活動として職員を派遣したり押し葉標本の洗浄作業を行った。



平成23年
(2011)

平成24年
(2012)

はじめての大型出張けんぱく

出張けんぱくとして柳ヶ瀬のジュラシックアーケードに参加(11月)。



博物館実習生により、旧徳山民家の障子張替え作業が行われた。

平成25年
(2013)

ようこそ裂け女でん！

特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」を開催(7/4～8/31)。生首コーナーが大人気！



博物館に遊びに来てくれた口裂け女さん



体はどこにいったの？

秋の特別展「里山いま昔」開催(9月)。百年公園に生息していることが判明したアルビノのタヌキ「銀次郎」が紹介された。



自然展示室2に会いに来てね

平成27年
(2015)

けんぱく新公式キャラクター誕生

U-18ミュージアムby岐阜各務野高校(MMG展示)により博物館体験アプリが開発された。アプリアイコンとして誕生したオリジナルキャラクターは、ヒャックドンに加わり岐阜県博物館の公式キャラクターとなった(3月)。



アロちゃん 探検博くん デスマスさん